

令和7年度 第1回学校関係者評価委員会議事録

鹿児島県立鶴丸高等学校

1 日 時 令和7年7月1日(火) 15:00~16:30

2 場 所 本館3階 研修室A

3 出席者 計16名

評価委員(4名)

- ・本校同窓会副会長(卒業生代表)
- ・建築事務所代表取締役(地域代表)
- ・私立短期大学教授(地域代表)
- ・公立中学校長(中学校代表)

学校側出席者(12名)

- ・校長
- ・教頭(2名)
- ・事務長
- ・教務課主任
- ・生徒指導課主任
- ・保健課主任
- ・進路指導課主任
- ・1学年主任
- ・2学年副主任
- ・3学年主任
- ・教務課副主任

4 会 順

- (1) 校長あいさつ
- (2) 学校評価実施要項について
- (3) 学校経営の概況について
- (4) 信頼される学校づくりについて
- (5) いじめ防止対策について
- (6) 各課の課題と取組
5課:教務, 生徒指導, 進路指導, 保健, 事務
※各学年は2回目を行う。
- (7) 質疑応答・各委員から

5 質疑応答

- (1) 学校評価実施要項について
・特記事項なし。
- (2) 学校経営の概況について
・特記事項なし
- (3) 信頼される学校づくりについて
・不祥事の防止には、職員が互いに支え合うという意識づくりが大事である。
→不祥事未然防止のために、リスクを理解し、自分事として捉えるよう、研修等を行い、ワークショップを通じて、同僚性を高める取組をしている。
- (4) いじめ防止対策について
・学校楽しいーと等の各調査において、何か事案は見られるか。
→各事案に対して適時対応するようにし、引き続き留意している。
・いつ、どこでも起こりうるので、今後も親身になって対応し、見守って欲しい。
・SNS利用に関する、生徒主体のルール作り等はあるか。
→SNS利用に関して、学級単位のLHRで、生徒主体による問題提起や解決法の話し合いをしている。
- (5) 各課の課題と取組
・例年になく暑いようであるが、暑熱対策としての環境づくりや生徒への指導はどのようにしているか。
→空調利用の開始時刻を早めた。体育の授業では、大型扇風機の利用、暑い場所をなるべく避け、休憩・水分補給などの時間を取っている。心肺蘇生研修等を通じて、熱中症の応急措置について学ばせる予定である。周囲が気づいて声をかけることや、自分からSOSを発信できることの大切さも指導したい。
・生徒自らSOSを発信出来る環境づくりには、先生方や周囲が受け止める姿勢も重要である。また、熱中症対策には、睡眠や食事などの生活面での指導も大切である。
→保健委員会で生徒とともに研究し、保健便り等で発信している。外部講師に依頼し、生活のあり方を指導していただいた。

- ・不登校の問題は、学校だけでは対応だけでは難しい面もあるので、スクールカウンセラーや学校医、心療内科等の専門の方の協力を得ながら、ともに考えていく、外部へつなげるということを大切にしたい。
- ・不登校になる生徒の傾向などがあるか。
- 不登校の原因や傾向等の、生徒の背景に留意している。
- ・進路実現にむけて、単元テストの実施やDXハイスクール事業への取組などされているが、これに対する分析や、今後の目標などあるか。
- 取組に対する分析は今後の大きなテーマであり、具体的な検証をしていきたい。カリキュラムについては、長いスパンをかけて研究する。進路については、Go 鶴セミナーなどを通じて、高い目標をもち、難関大を目指す生徒が最後まで諦めない傾向がある。また、受験生としての意識を早めに持たせることが必要であると考え。
- ・自己有用感をもつことは、社会でも重要であり、学問観や職業観の育成には、Go 鶴セミナーなど、卒業生のお話を聴く機会を利用して欲しい。

(6) 各委員から

- ・先生方の、生徒を思う気持ちが伝わり、感服する。同窓会も協力を惜しまない。保護者や外部へ、SNS等での情報発信や啓蒙をお願いしたい。感染症予防において、設置された消毒液やサーキュレーターなど、今ある資源をしっかりと利用していただきたい。
- ・探究型の学びが重要視され、探究型の入試が増加するようだが、すでに取り組んでいる部分も含めて今後も実践していただきたい。
- ・プロジェクターを利用した授業が工夫されている。
- ・スクールポリシーに述べられている事を実践していけば、様々な問題の解決に繋がると思われる。鶴丸高校のあり方について、今後も注目している。
- ・不登校に関する問題は、短期大学でも苦慮している。学生や保護者の自覚があれば対応出来る面もあるが、そうでない場合は対応が難しいこともある。

6 今後の予定

(1) 第2回委員会(11月中旬)

中間評価、学校行事(集団読書)の参観、施設見学、意見交換

(2) 第3回委員会(2月中旬)

自己評価(最終)評価、教職員との対話、意見交換